

補助金・事業計画策定サポートサービス のご案内

山陰合同銀行
ソリューション営業部

夢を協える、
みらいを創る

目次

1. 企業を取り巻く環境/頻出課題
2. ビジネスにおける「あるべき姿」
3. 課題解決へ向けたステップ
4. サービスラインナップ

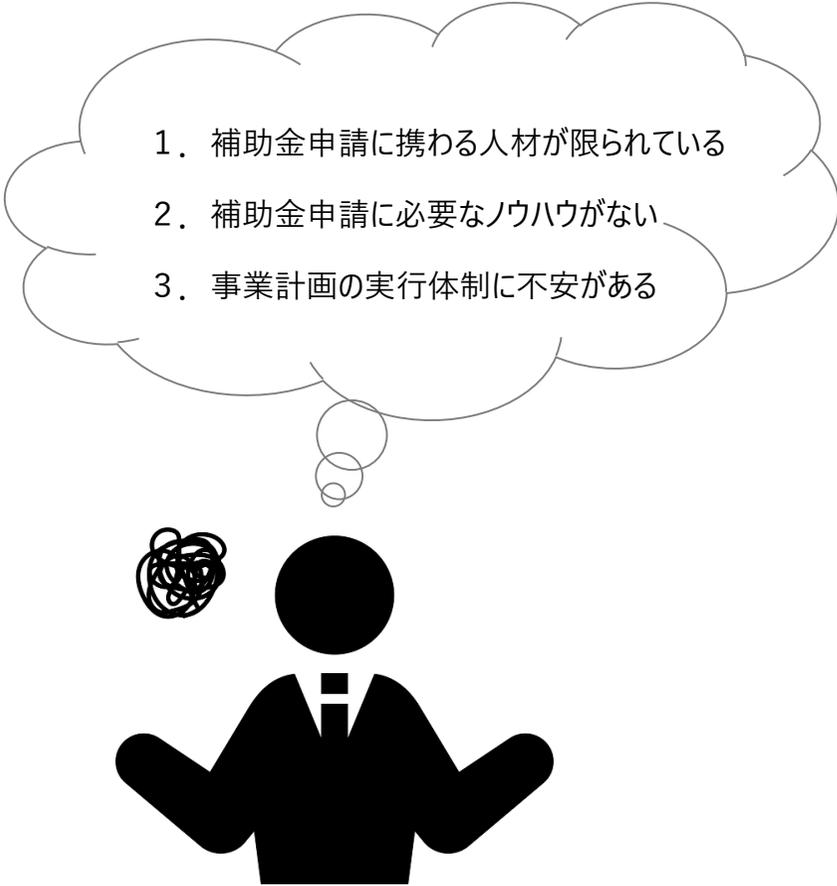
企業を取り巻く環境/頻出課題

生産性の向上実現のために補助金を活用することは、事業リスクの低減を図るうえで有効な手段です。一方で、申請要件が複雑な補助金も多く、企業によっては申請に携わることのできるリソースが限られているため、事業計画の策定に悩みを抱えています。

企業を取り巻く環境



頻出課題



ビジネスにおける「あるべき姿」

補助金は中小企業の経営の安定化を目的として、その時点における共通課題の克服を目指して募集される性質があります。単純な資金調達と捉えるのではなく、時流に適応した経営を行う機会として補助金を活用していくのが持続的な企業発展に肝要です。

中小企業における補助金活用の意義

■ 資金調達のサポート

自社資金や負債による調達以外の資金調達手法として、成長に向けた投資への取組みを促進する効果があります。

■ リスクの軽減

新規事業や製品開発、投資には必ずリスクが伴います。補助金を原資とすることで失敗した場合の経済的リスクを軽減し、積極的な機会へのチャレンジを促進する効果があります。

■ 経営の安定化

経済的な支援を受けることで、事業運営の安定性が増し、経営の安定化を図ることができます。これにより、企業はより長期的な目線から経営計画を立てやすくなります。

■ 競争力の強化

補助金によって取組が可能となった研究開発や新技術・新設備の導入は企業のイノベーションの推進や生産性の向上に寄与し、企業の競争力を強化する基盤となります。

■ ステークホルダーへの波及効果

補助金を活用した新たな事業展開や生産拡大により、雇用が創出されたり、取引先との取引量が増大するなど、自社を取巻くさまざまなステークホルダーにその効果が波及されます。

■ 実現可能性の向上

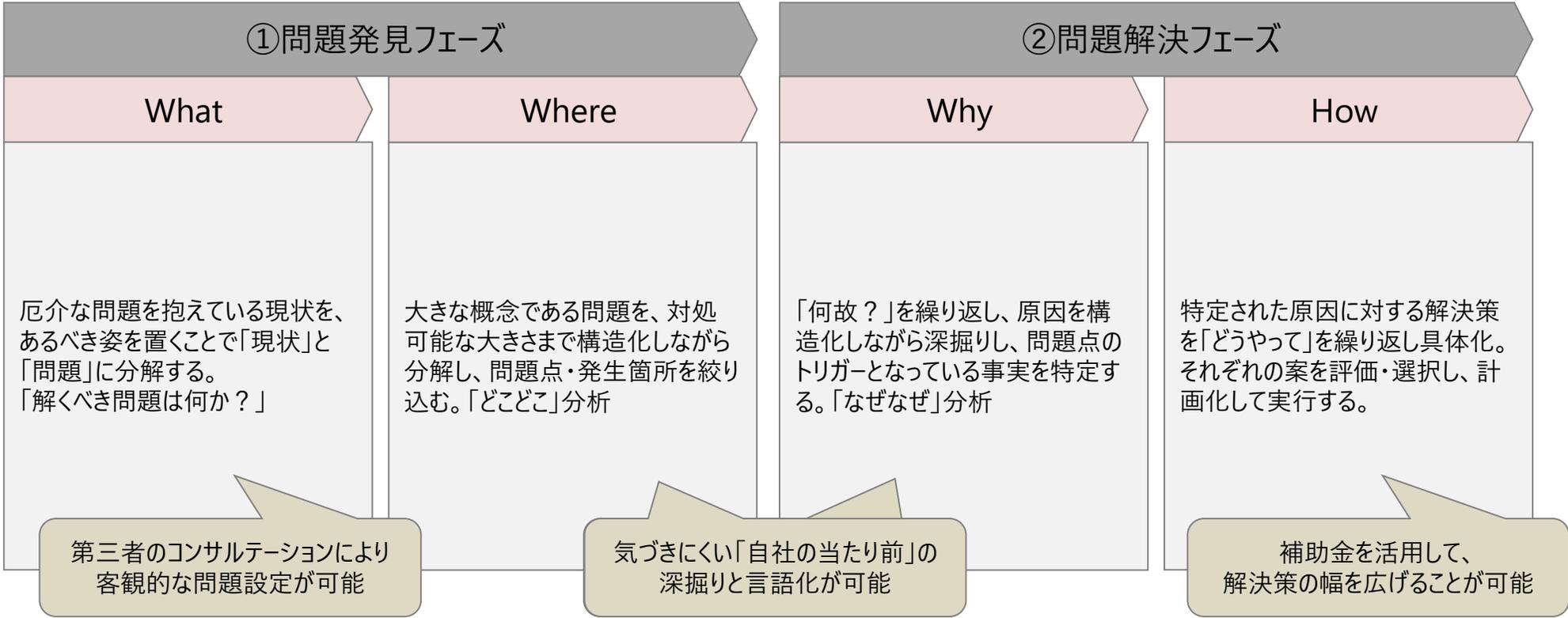
補助金申請に伴う過程において、審査を受けることによって、自社の計画の蓋然性を第三者目線で確認することができます。実現性の低い取組を回避すると共に、審査過程で計画へのアドバイスを受け、その実現可能性を向上させることができます。

自社を中心とした持続的なエコシステムの維持発展に向けて、補助金は積極活用すべき有効な手段の一つです

課題解決に向けたステップ

補助金申請は時限性が高く不定期な業務であり、外注リソース活用が効率的であるケースが珍しくありません。これらを組み合わせることで、第三者の視点を活用した自社のあるべき姿や課題の定義と、補助金を活用したローリスクな解決策実行が可能となります。

一般的な事業計画策定へ向けたアプローチと補助金の効果

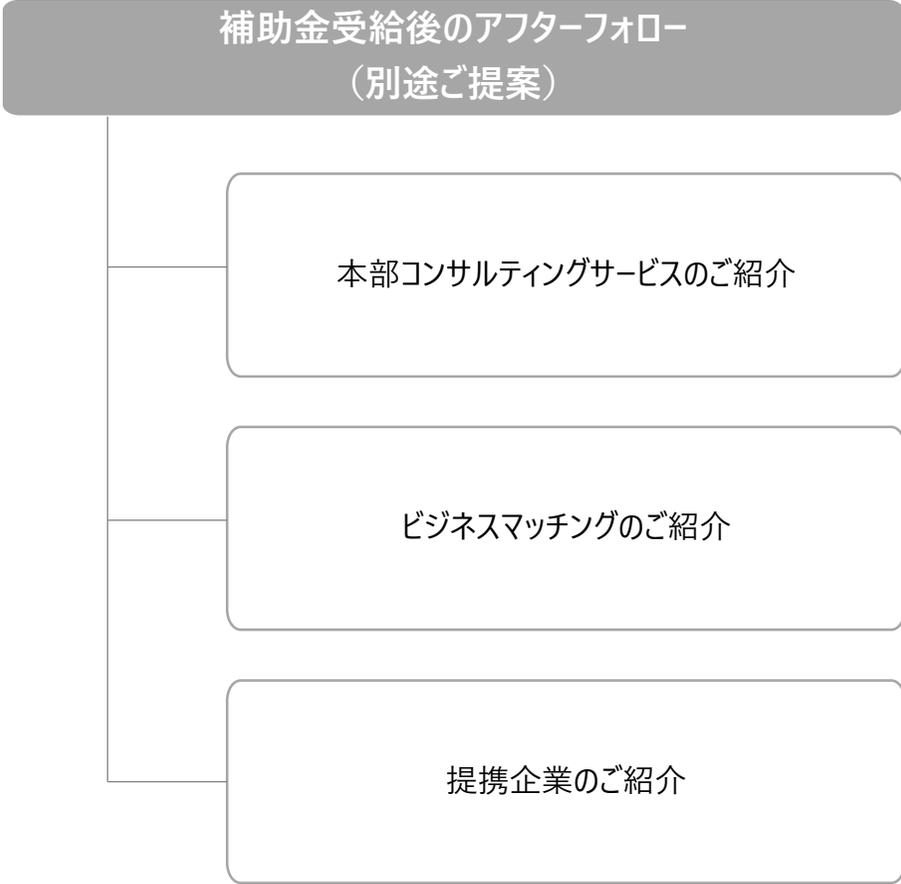
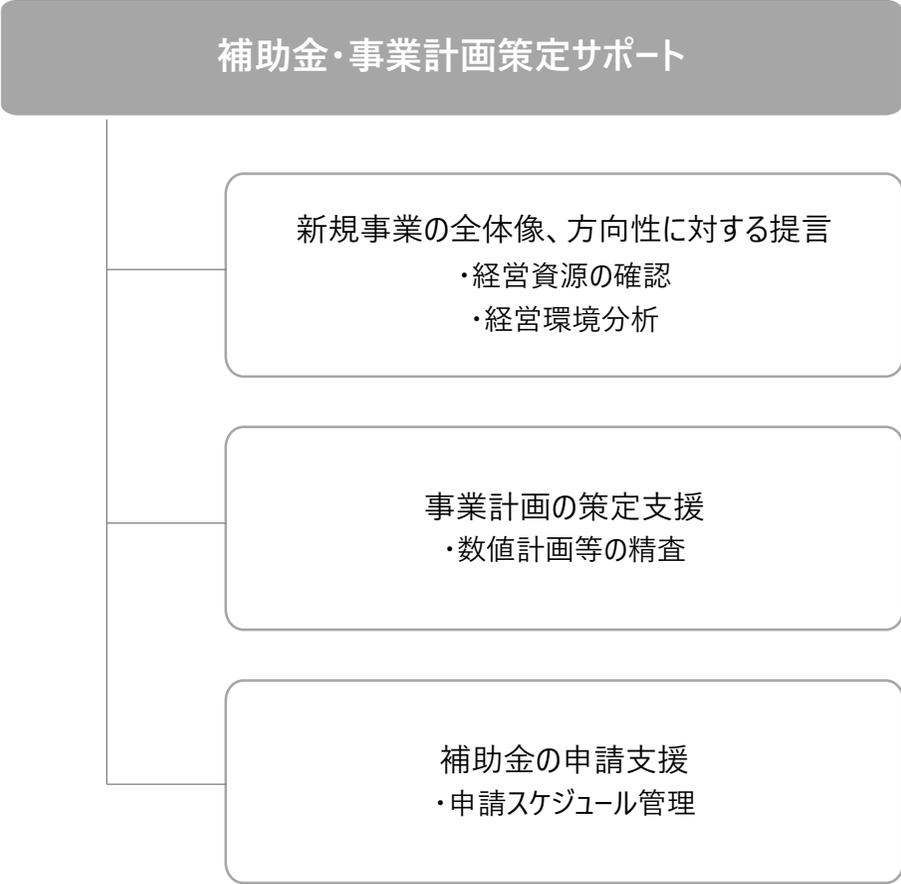


※審査過程における蓋然性のダブルチェックが可能

サービスラインナップ

ごうぎんでは補助金申請に必要な事業計画の策定支援の他、補助金受給後の事業計画の実行に向け、各専門領域の本部コンサルティングや提携企業をご紹介することで課題解決へ向けた総合サポートを提供しております。

コンサルティングメニュー



おわりに

本資料の作成に際しては十分な注意を払っておりますが、内容の正確性・妥当性・適法性につき本行が保証するものではありません。本資料に含まれる情報をもたらす一切の影響、本資料の内容に関する正確性・妥当性・適法性等につきましては、貴社においてご確認・ご判断いただきますようお願い申し上げます。

